

ジンプリチシムス

原典訳『阿呆物語』

総目次



グリンメルスハウゼン | 作
吉田孝夫 | 訳

八坂書房



初版表紙 5

初版扉絵 7

目次 9

凡例 12

第I巻 13

第II巻 143

第III巻 287

第IV巻 411

第V巻 525

第VI巻(続編) 653

『ジンプリチシムス』案内——あとがきに代えて 823

参考図版 879

図版出典一覧 922

参考地図 923

略年表 926

- 1 ジンプリチウスが百姓の生まれであり、まさに百姓ふうの養育をうけた次第を伝える 17
- 2 ジンプリチウスが昇りゆく高貴の第一階梯を物語る。ならびにすばらしき牧人の礼賛と、秀逸なる教訓をおまけに一つ 23
- 3 忠実なるわが仲間、共に嘆き憐れんでくれるバグパイブのことを物語る章 26
- 4 ジンプリチウスの宮殿は占領され、略奪され、破壊される。そして兵隊たちがあさましくも暴れつつける 30
- 5 逃亡したジンプリチウスが、朽ちた大木にびっくりさせられた次第 34
- 6 短い章です。そしていかにもキリスト教めいた、敬虔な中身なので、圧倒されたジンプリチウスは気を失ってしまふ 37
- 7 ジンプリチウスは、みすぼらしい宿屋で親切をうける 41
- 8 ジンプリチウスの優れた頭脳が、その高邁なる答弁より顕現する次第 44
- 9 ジンプリチウスは一匹のケダモノから一人のキリスト者に変わる 48
- 10 森の奥深くで、ジンプリチウスはいかにして書くことと読むことを習い覚えたか 52
- 11 この現世に生きるかぎりは無してすまされぬ、食事と家財道具、その他もろもろの必需品について語る章 56
- 12 至福のうちに死んでいくための立派な方法、ならびに無用の出費をぐくわずかにしてわが身を葬るための立派な方法を伝授する章 59
- 13 ジンプリチウスは沼の葦のごとくに揺られ漂う身となる 64
- 14 五人の百姓たちとの珍妙なる喜劇の章です 66
- 15 何もかも奪いとられたジンプリチウスは、戦乱の世に、農民たちがいかなる生をおくるかについての不思議な夢を見る 72
- 16 こんにちはの兵士たちの日々のふるまいを語る章。そして身分の低い兵隊の昇進はいかに困難であるかということ 75
- 17 戦乱の世では当然ながら、身分の劣れる者より貴族のほうがよい思いをするもの。とはいえ賤しい階層から、誉れ高き地位に昇りつめる者も少なくはない 78

18 ジンプリチウスは俗世に最初の一步を踏み出すが、およそ不運ばかり

19 ハーナウの町がジンプリチウスによって、またジンプリチウスがハーナウによって捕えられる次第

20 いかにしてジンプリチウスは、牢獄と拷問から救い出されたか

21 ひとを騙すこと常なる幸運が、ジンプリチウスに親しき友のまなざしをおくる

22 ジンプリチウスに多くの善きものを授けてくれた、あの隠者とは誰だったのか

23 ジンプリチウスは小姓となる。ならばに隠者の奥方がかつて行方知れずとなったことの次第

24 世の人びとを非難するジンプリチウスは、ニセの神がみが世に跳梁跋扈していることを知る

25 珍妙なるジンプリチウスの目に、世間のすべては珍妙に思われる。しかし世間から見ると、ジンプリチウスも同じこと

26 お互いの幸せを願い、お互いを歓迎し合う新しくて不思議な習慣

27 デレリケス書記官の執務室に強烈なる匂いの燻蒸が行われる

28 ジンプリチウスは妬み心をもつ人から予言の術を学ぶ。そしてもう一つ別の素敵な術も

29 ジンプリチウスは仔牛の頭から二つの眼の玉をもらう

30 少しずつ酔いのまわってきた人間が、いつしかヘベレケになったことに気づかぬ次第

31 ジンプリチウスが秘術をみごとしくじり、ポカポカと殴られて受難の歌を捧げられた次第

32 あらためて暴飲酒乱の模様をお伝えし、そこから坊主たちをいかなる方法で立ち去らせたかを物語る章

33 司令官どのがひどくゲロゲロされた次第

34 ジンプリチウスが舞踏会をぶちこわす次第

8	驚異の記憶力をもつ人たち、ならびに忘れっぽい人たちについて語る章	172
7	ジンプリチウスはいかにしてこの動物のような境遇におかれたか	167
6	ジンプリチウスは天国にたどりつき、仔牛に姿身させられる	164
5	ジンプリチウスは四人の悪魔によって地獄へと連れ去られ、スペイン産の葡萄酒でこっぴどい歓待を受ける	159
4	カネを授ける男のこと、またジンプリチウスがスウェーデン君主のために大いなる戦功をあげ、それによってジンプリチシムスの名を授けられた次第	156
3	小姓の片われが授業料をせしめ、ジンプリチウスは阿呆の道化役に選出される	152
2	風呂を浴びるのに最適のタイミングはいつか	149
1	牡のガチョウと牝のガチョウがつかいになった次第	147
9	うるわしき貴婦人への風変わりなる讚美	178
10	英雄と名高き芸術家の何たるかについて、ひたすらに語る章	181
11	為政者という、心労と危険に満ちた身分について	187
12	理性なきいくつかの動物たちの賢さと知恵について	192
13	いろんなことが出てくる章。それを知りたいお方は、どうぞご自分でお読みいただくか、あるいは誰かに読んでもらっていただきたい	186
14	ジンプリチウスはいかなる（高貴な）暮らしをおくったか。またクロアチア兵がジンプリチウスを奪い去り、その栄えある暮らしが奪い去られた次第	201
15	ジンプリチウスの騎兵時代。ならびにジンプリチウスがクロアチア兵のもとで見たこと、その身に味わったこと	204
16	ジンプリチウスは立派な戦利品にありつき、泥棒にして森の隠者となる	208
17	ジンプリチウスが魔法の舞踏会を訪れた次第	211

18 ジンプリチウスは大ボラ吹きであると、ゆめゆめ思っ
てはならぬのはなぜか

19 ジンプリチウスはふたたび、かつてそうであつたまんま
の阿呆となる

20 サイコロ遊びとそれがもたらす結末を物語る、なかなか
とつても長い章

21 前の章よりいくらか短く、いくらか愉しい章

22 相手の陣地を互いに奪い合う、悪党ならではの盗っ人の
技

23 ウルリヒ・ヘルツブルーダーはドゥカーテン金貨百枚で
自分を買い戻す

24 二つの予言が一度に実現する

25 ジンプリチウスはうら若き少年からうら若き乙女へと姿
身し、いくつもの求愛をうける

26 ジンプリチウスは裏切り者にして魔術師なりと見なさ
れ、囚われの身となる次第

27 憲兵将校はヴィットシュトックの戦いでいかなる思いを
味わつたか

28 栄光の勝利者が、勝利のすえに捕われの身となりし大会
戦のこと

29 まだ死んでもいないのに「パラダイス」に入った信心深
い兵士が至福を味わい、この兵士の死後に「狩人」がそ
の立場を受け継ぐ次第

30 兵士の生活が始まったとき、「狩人」はいかにふるまっ
たか——世の若き兵士はここから教えを導き出されよ

31 悪魔は坊さまのベーコンを盗み、「狩人」は囚われの身
となる次第

- 1 〈狩人〉が過てる道に踏みこんだ次第 291
- 2 〈ゾーストの狩人〉が〈ヴェルルの狩人〉を始末する 295
- 3 偉大なる神ユピテルが囚われの身となり、現世に神託を伝える 302
- 4 全世界をみずからに従わせ、全民族のあいだに平和をうちたてる〈ドイツの英雄〉のこと 306
- 5 〈ドイツの英雄〉はもろもろの宗教をいかにして一つにまとめ、一つの型に流しこむか 311
- 6 ユピテルのもとで、ノミの使節団は何を成し遂げたか 315
- 7 〈狩人〉はあらためて名譽と獲物を手に入れる 320
- 8 ジンプリチシムスは悪魔を長持のなかに見つけ、シュブリング・インス・フェルトは立派な馬を手に入れる次第 325
- 9 とことん弱い者が勝利し、相手に勝った者が囚われる、まともじゃない勝負のこと 330
- 10 砲兵司令官は〈狩人〉の命をとらず、それどころか希望をあたえる 334
- 11 どうでもいいチップケなことも、どデカイ思いこみも、あれこれと出てくる章です 340
- 12 幸運の女神は〈狩人〉に思いがけずして貴族ふうの贈り物を授ける 344
- 13 ジンプリチウスの珍妙なる物思いと空中樓閣。そしてジンプリチウスはいかにして宝物を隠し持ったか 350
- 14 〈狩人〉が敵軍に捕われの身となる次第 356
- 15 〈狩人〉はいかなる状況下でふたたび自由の身となったか 361
- 16 ジンプリチウスが自由なる〈貴紳〉のごとくになった次第 365
- 17 〈狩人〉は何をして六か月をすごそうと考えたか。ちなみに例の女占い師についても少々 369
- 18 〈狩人〉が色恋に目覚め、これを得意技とするにいたった次第 375

19 〈狩人〉はいかなる方法で友人を得たか、また教会の説
教でいかなる誠の信心を得たか

20 〈狩人〉のエビクロスふうの暮らしに口出しする生真面
目な牧師に、そんなヒマがなくなるようにとジンプリチ
ウスが別の仕事を与える次第

21 〈狩人〉が思いがけずして妻をめぐった次第

22 婚礼の宴はいかなる模様だったか。また〈狩人〉はその
後いかなる行動に出たか

23 ジンプリチウスは財産を回収するべく、とある町に來
る。それは話の都合上、ケルンと名づけておこう

24 〈狩人〉は町の真ただ中でウサギを一羽捕まえる

—
405

—
398

—
394

—
386

—
382

—
378

- 1 いかにして、いかなる理由から〈狩人〉は遙かフランスまで厄介ばらいされることになったか
— 415
- 2 このたびのジンプリチウスの宿の主人は、前とは違って善き人なり
— 419
- 3 ジンプリチウスが舞台役者として重宝され、新しい名前を頂戴する次第
— 422
- 4 〈ポー・アルマン〉は意に反して〈ヴェーヌスの山〉に連れこまれる
— 426
- 5 〈ヴェーヌスの山〉でいかなることを味わい、そこからどうやって出てきたか
— 433
- 6 ジンプリチウスは秘かにフランスを出る。そして〈ナポリの災い〉なる病にかかったと信じこむジンプリチウスが、いかなる治療の施術をうけたか
— 438
- 7 ジンプリチウスが将来のカレンダーを思い描き、喉元まで水が迫ったところで泳ぎを覚えた次第
— 442
- 8 ジンプリチウスが放浪の香具師、つまりは一介の詐欺師となった次第
— 444
- 9 医師ジンプリチウスがマスケット銃兵に変身し、〈ハラペコ太郎〉隊長のもとで暮らす次第
— 450
- 10 ジンプリチウスは、ライン川のまるで楽しくない川遊びを切り抜ける
— 454
- 11 神に仕える人間はなぜ畏で捕らえたウサギを食べてはならないのか
— 461
- 12 ジンプリチウスは思いがけずしてマスケット銃とオサラバする
— 464
- 13 本章は〈メロッド兄弟団〉について語ります
— 469
- 14 生死をかけた危険きわまる一騎打ちで、双方が死を免れる
— 474
- 15 〈護摩の灰〉たるオリヴィエが無数の悪事の弁解を試みる次第
— 478
- 16 〈狩人〉のオリヴィエがヘルツブルダーの予言を自分の都合で読み解き、それゆえ最も憎むべき敵を愛する結果になった次第
— 482

17 強盗に出たジンプリチウスの物思いは、教会にいるオリ
ヴィエの物思いよりも敬虔なり

— 485

18 オリヴィエは自分の生まれと若き頃のことを、とりわけ
学校時代のふるまいを物語る

— 490

19 リージュの大学生となったオリヴィエは、この地でい
かにふるまったか

— 492

20 誠実なる大学生オリヴィエの帰郷と別れ。そしてオリヴ
ィエが戦争のなかに出世を試みる次第

— 495

21 誰が誰なのかもわからぬままに、ジンプリチウスが老へ
ルツプルーダーの遺せるオリヴィエの予言を成就する次
第

— 498

22 犬の災難と猫の災難に襲われる者はいかなる目に遭い、
いかなる命運をたどるか

— 502

23 親方オリヴィエと、その徒弟ジンプリチウスとが営む職
人稼業の教訓譚として、次なる小話を一つ

— 507

24 オリヴィエは草葉の陰の人となり、六人の男を道連れに
する

— 512

25 ジンプリチウスは大金持ちになって逃げ出し、ヘルツプ
ルーダーは底なしの貧乏になって現われる

— 514

26 これに続く章はもはやございませず、本章は第IV巻の結
びとあいなります

— 519

- 1 ジンプリチウスは巡礼の徒となり、ヘルツブルーダーと
霊場への旅に出る次第 529
- 2 悪魔にびっくりさせられたあと、ジンプリチウスは回心
をする 534
- 3 二人の友が冬を過ごす次第 538
- 4 ヘルツブルーダーとジンプリチウスがふたたび戦場に行
き、そしてまた脱け出す次第 542
- 5 ジンプリチウスは使者のごとく走り、メルクリウスの姿
をとり、主神ユピテルから、戦争と平和についていかな
る考えをもつのかを教えられる 546
- 6 ジンプリチウスが湯治場でやらかした茶番劇のひとつま 552
- 7 ヘルツブルーダーは世を去り、ジンプリチウスはふたた
び女遊びを始める 556
- 8 ジンプリチウスは二度目の結婚生活を始め、(トトさま)
と再会し、実の親が誰なのかを知る 561
- 9 ジンプリチウスが子育ての苦しみを味わい、それからふ
たたび寡夫となる次第 570
- 10 摩訶不思議なるムンメル湖についての農夫たちの報告 573
- 11 とある患者からの前代未聞の感謝と、そのためにジンプ
リチウスがほとんど神聖なまでの思惟にふけた次第 578
- 12 ジンプリチウスが水の精とともに地球の中心へ旅をする
次第 581
- 13 ムンメル湖の主は水の精たちの本性と起源について物語
る 586
- 14 さらに続けてジンプリチウスは、この湖の主を相手に道
すがらどんな話し合いをしたか。そしてジンプリチウス
はいかに不可思議な、現実ばなれした物ごとを聞かされ
たか 593
- 15 王はジンプリチウスに、ジンプリチウスは王に何を語っ
たか 598

16 底知れぬ（南方海）、またの名を（平安なる海）とも
いう、太平洋の深みよりもたられたいくつかの新しい
知らせ

17 地球のど真ん中からの帰還、珍妙なる妄想、空中楼閣、
未来図の占い、そして捕らぬ狸の皮算用

18 ジンプリチウスは湯治場を不相応なところに造って無駄
にする

19 ハンガリーの再洗礼派とその暮らしぶりについて少々

20 シュヴァルツヴァルトの森を出て、ロシアの都モスクワ
まで至る、いとも愉しき散策が語られる章

21 モスクワのジンプリチウスはこの後どうなったか

22 いかなる近道、いかなる愉しい道のリを経て、ジンプリ
チウスはふたたび故郷の（トトさま）のもとへ戻ったか

23 あっという間に終わる短い一章。しかもジンプリチウス
のことだけです

24 結びの章。なにゆえ、いかにしてジンプリチウスはふた
たび俗世を去るのかを伝える

644

641

638

630

625

620

614

610

604

- 1 小さな前置きと、隠者二世が新しい境遇から何を思ったかについての短い物語 659
- 2 ドイツに和平が成就したとの最新ニュースを得て、悪魔の王ルシファーはいかにふるまったか 664
- 3 地獄の廷臣たち、ならびにその他のしもべたちの珍妙なる大行列 669
- 4 〈浪費〉娘と〈吝嗇〉爺さんの悪魔対決。そして前の章よりちよっとだけ長い章 672
- 5 森の奥地を出た隠者は、イギリスとフランスのあいだの海上へ船出する 681
- 6 ユールスとアヴァールスがパリへと旅をして、暇つぶしをする次第 686
- 7 アヴァールスは懲りもせず盗みをつづけ、ユールスは借金を負い、その父はあの世へ旅立つ 694
- 8 ユールスは貴族の装いでイギリスへと旅立つ。アヴァールスは天国と現世のあいだで逮捕される 699
- 9 ジンプリチウスのもとを訪れた〈バルトアンダース〉が、〈動くもの〉と〈動かざるもの〉を相手に言葉を交わす術、その両者を理解する術を手ほどきする 704
- 10 世捨て人ジンプリチウスは、森の隠者から聖地詣での徒に变身する 710
- 11 ジンプリチウスと〈便所紙〉シエルメッサーとの珍妙な対話 714
- 12 前章の話の素材が続行され、判決が執行される 722
- 13 ジンプリチウスは夜の宿を与えてくれた主人に、いかなる術を伝授したか 729
- 14 巡礼びとの語るいろいろな大法螺話。高熱にうなされた悪夢でも、これには負ける奇妙奇天烈な話の数かず 736
- 15 いくつかの宿で、ジンプリチウスの身にいかなることが起きたか 742
- 16 巡礼びととジンプリチウスが、ふたたび城館を後にして旅立つ次第 752

17 ジンプリチウスはいかなる次第で地中海を越え、エジプトに行き、そして紅海のほとりへ誘拐されることになったか

18 〈野人〉は大きな幸運と大きなカネとに恵まれ、ふたたび自由の身となる

19 ジンプリチウスと大工は命拾いをし、難破の憂き目に遭ったあと、みずからの領土を授かる

20 二人がなんとも美しい料理女を雇い、しかし神の助けによってふたたび手放した次第

21 このちも二人は共に暮らし、目下の現実を受け入れる次第

22 前の物語のさらなる続き。そしてシモン・メロンがこの島と現世とを去り、ジンプリチウスがただ一人の主となる次第

23 隠者ジンプリチウスは物語を終えて、この全六巻を閉じる

24 オランダ人船長ジャン・コルネーリセンが島に上陸する。船長は〈報告〉をしたため、本書の付録となす

25 オランダ人は滑稽なる変身を体験し、ジンプリチウスは要塞に立てこもる

26 ジンプリチウスが包囲軍との和平に合意したあと、客人たちに理性が戻る

27 全巻の完結。そしてオランダ人たちとの別れ

結語